

中野区教育委員会会議録 平成25年第29回定例会

○開会日 平成25年10月4日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午前 10時53分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	高 橋 信 一
副参事(子ども教育経営担当・知的資産担当)	
	辻 本 将 紀
副参事(学校再編担当)	石 濱 良 行
副参事(学校教育担当)	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
副参事(学校・地域連携担当)	濱 口 求
副参事(子ども教育施設担当)	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長

大 島 やよい

委 員

渡 邊 仁

○傍聴者数 2人

○議事日程

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

(2) 事務局報告事項

①防災教育の実施状況について（指導室長）

②運動遊び事例集について（指導室長）

③海での体験事業の実施結果について（学校・地域連携担当）

中野区 教育委員会
第 2 9 回定例会
(平成 2 5 年 1 0 月 4 日)

午前10時00分開会

大島委員長

おはようございます。

教育委員会第29回定例会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

ここで傍聴の方にお知らせいたします。本日の事務局報告事項の2番目、「運動遊び事例集について」及び3番目、「海での体験事業の実施結果について」の資料は、いずれも区議会への報告前の資料となりますので、後ほど回収させていただくこととします。

傍聴の方は、ご退室の際に、事務局へ資料の返却をお願いいたします。

それでは日程に入ります。

<報告事項>

<委員長、委員、教育長報告>

大島委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

私から、9月13日の第28回定例会以降の主な委員の活動につきまして、一括して報告します。

9月28日土曜日、「スポーツ祭東京2013 第68回国民体育大会総合開会式」。私と渡邊委員が出席いたしました。

10月3日木曜日、「第45回中野区中学校総合体育大会連合陸上競技大会」に、私、小林委員、渡邊委員、田辺教育長が出席いたしました。

私からの一括報告は以上です。

次、各委員からご報告事項があればしていただきたいと思いますが、まず、私から補足しまして、9月28日ですが、午前9時半から中野体育館において、今報告しました「第68回国民体育大会」に関連してのデモンストレーションとしてのスポーツ行事、競技会役員委嘱状の伝達及び競技会というのが開かれまして、デモンストレーションとして、中野区では、フラッグフットボールと躰道というのを行うことになっているのですが、この28日にはフラッグフットボールにつきましての開始式が行われまして、私と田辺教育長も開始式に出席いたしました。

開始式の後に、フラッグフットボールの競技が行われたのですが、この日午後には、今お話に出ました「スポーツ祭東京 2013」の総合開会式が味の素スタジアムで行われまして、そちらのほうへ行く関係がありまして、中野体育館にはあまり長い時間いられませんでした。

私からの補足は以上です。

小林委員何かございますか。

小林委員

私は昨日の中学校の連合陸上競技大会に参加してまいりましたけれども、晴天のもとで中学生、非常に頑張ってやっていたと思います。

東京オリンピック開催に向けて、今後、会場等変更になるのかなと思うのですが、現在、学年の一部の代表選手で行われています。これは全員が参加するというのは、これまでもいろんな経緯があったと思うのですが、少し検討事項として考えてみていいのかなと思いました。

やはり代表選手が出るよさというのがありますし、また全員が出るよさもあると思います。ただ、授業時数の関係とか、生徒指導上の問題とかいろいろあると思いますので、今後一部の選手制にするのか、全員参加にするのか、この辺は一つの検討事項かなと感じました。

以上です。

大島委員長

では、高木委員いかがでしょうか。

高木委員

私は9月25日と26日に次男の通っている学校のパトロールの立ち番をちょっとやりました。場所はアポロ園の前の横断歩道なのですが、年間四日から六日回ってくるのですが、7時45分から8時15分まで、緑のおじさんのようなことをやりました。

アポロ園の前の道路は、中野のほうに抜ける道路の計画があったところで、非常に広くて真っすぐで、車を飛ばすところなのですね。以前は私の家の横でもネズミとりをやっているくらい危ないところなのですが、子どもたちは元気よく、朝、登校していました。ただ、広いだけに工事の車がよくとまっているのです。この日も、水曜日はトラックが2台、横断歩道のすぐ手前で見通しが悪くとまっていたので、行って注意をしたのですが、去年やったときも同じようなことがありまして、ただ、なかなか朝の立ち番というのは、

男性の方がやるケースが少なく、女性の方だとなかなか行って注意するというのは、勇気がいるのかなと思います。場合によっては「わかってるよ」とかと言われたこともあるので、ただ、子どもの安全のためですみたくに言うと、納得して動いてくれるのです。

あと、二日目は泣いている1年生がいて、一緒に、ちょっと時間に余裕があったので、小学校まで連れていったことがあって、気になりました。3年生のお兄ちゃんが一緒に来て、お母さんは「ともかく連れて行って」と、お兄ちゃんに託したらしいのですが、「宿題をやっていない」とかということで、女の子が泣いてしまって、横断歩道を過ぎたところで動けなくなっていたのです。多分、お母様もお仕事をされていて、お兄ちゃんに託したらしいのですけれども、お兄ちゃんも「僕、遅刻しちゃうよ」と泣きそうになっていて。ただ、通りかかった集団下校のときの同じチームの上級生も心配してきてくれて、そういった子たちで、集団登校ではないのだけれども、いろいろな形で助け合うような縦割りができるのかなということで、少しそういった、教育の効果的なものを見られてよかったなと思っております。

私からは以上です。

大島委員長

渡邊委員はいかがでしょう。

渡邊委員

私は9月28日に国体の開会式のほうに参加させていただきました。オリンピックが決まった直後ということで、非常に盛り上がった開会式になっておりました。

また、東京でやるということで、日本の首都をイメージするようかなりパフォーマンスの、パワーのある開会式で、その中でオリンピックが決まって、会場からも選手からも雰囲気からも、やはりオリンピックとかスポーツにかける意気込み、みたいなものを感じ取ることができました。

その次、昨日ですけれども、中学校総合体育大会陸上競技大会を、国立競技場に行っていました。スポーツ選手にとっては、聖地ともいえるべき場所なのでしょうけれども、そういった場所を見させていただいて、非常に整備がされていて、とても環境のいいグラウンドでスポーツをする方はやはり特別な思いで、会場に行けるのだろうなと思っておりました。

また、今回の開会式のご挨拶で、校長先生が7年後のオリンピックに決まりましたと、ここに新しい会場が生まれ変わります。今、中学生ですから、この中にここで活躍できる

選手が出るのではないか。全くそのとおりだなと。中学生が、ちょうど7年後にはピークになって、この中で活躍してくれる人が、またここに帰って来られる人たちがいるということがあったら、それは感動だなと思いました。

先ほど、小林委員が言われたように、こういう経験というのは、スポーツをやっている、地方でやっているスポーツ選手は、いくら活躍しても県大会とか、オールジャパンにならない限りは、こういったところで競技できるということではなくて、そういった機会を、我々は東京に住んでいるがゆえに持てるということですから、何らかの形で、こういった貴重な、ここにいるからこそできるような体験というのを、いろいろな形で味あわせてあげたい。7年間は使えなくなってしまうのでしょうけれども、また、いろいろと難しい環境があるのですけれども、一部の生徒たちだけでなく、みんなで感じ、さわられるようなことができたらと思います。なかなかどうしたらいいのかわかりませんが、そういったことも何か計画できたらとか、中野区から発信できたらとかは、会場に行って思っていました。

本当にいい経験をさせていただきましてありがとうございます。

大島委員長

田辺教育長いかがですか。

教育長

特にございません。

大島委員長

私もちょっと補足の感想を。先ほど述べなかったので、言わせていただきます。

味の素スタジアムの総合開会式、中野区教育委員会の関係でお招きをいただいたので、出席することができたわけなのですけれども、本当に渡邊委員が言われたように、大変に大がかりで派手な開会式で、オリンピックの開会式のミニ版といいますか、予行演習みたいな意味合いもあるのではないかと思ったくらいで、飛行機がバーッと上空を飛んで線を描くとか、それで最後には花火が空に打ち上がって、物すごい映像のようなものができたり。あと、いろいろな各種団体のダンスですとか、沖縄のエイサーですとか、パフォーマンスがすごく、時間も長くて、3時間以上ですか、4時間ぐらいでしょうか。こういうのは初めて参加させていただきまして、本当にすごい開会式を見ることができ、大変興味深かったです。

また、警備がすごく、至るところに背広姿の警官の方と、制服を着た警官の方が物す

ごくいまして、入るときもペットボトルのお茶を持っていたのですが、一口飲んでくださいとか言われまして。中身を確かめるのだと思うのですけれども、一口飲まされた後に、それをボトルでなく紙コップに移して持って入りなさいというふうなこともありまして、びっくりいたしましたけれども、これもオリンピックに向けての警備の訓練というような要素もあるのかなと思ったりいたしました。

熱い司会の松岡修造さんが、コートのところを駆け回って、すごい盛り上がりの雰囲気をもさらに盛り上げてくれていたみたいです。

それからきのうの、国立競技場での中野区の陸上競技大会で、こういうところに代表選手で出た人たちは、本当に自分の能力を伸ばしてもらいたいなと思いますし、こういうところに行けるほど能力があればいいのになと思ったりしました。小林委員と渡邊委員が言われているように、中野区の全部の中学生が参加できるようなものがあるのか、代表選手だけのほうがいいのか、いろいろ難しいところだとは思っているのですけれども、前から私たち教育委員の中でも、みんなに国立競技場の土を踏ませてあげたいというようなご意見の委員の方もいらして、そういうことは話題になっておりました。これからまた、その辺のところも、もちろん国立競技場も生まれ変わるようではございますけれども、そういう大きな競技場でどういう形で中野区の中学生がやったらいいのか、また検討していきたいと思つた次第です。

きのうはとても天気がよくて、スポーツ日和ということで雰囲気はとてもよかったです、気持ちよかったです。

私からは以上です。

ほかに、委員の方からご発言は、よろしいでしょうか。

<事務局報告>

大島委員長

それでは、次に事務局報告に移ります。

事務局報告、報告事項の1番目「防災教育の実施状況について」の報告をお願いします。

指導室長

それでは、お手元の資料に基づきまして、防災安全教育について報告をさせていただきますと思います。

防災安全教育なのですが、これまでも取り組んできているところなのですが、3・11以来、社会的な要請も高まっているというところがあります。例えば、議会でも防災教育に

ついて現在どういうふうに進めているかですとかご質問をいただいていますし、またPTAからのご要望やご質問の中にも、防災教育どういうふうに学校でやっているのですかというようなことがいわれる、そういうような時代になっています。

そこに国と都の考え方を記しておきましたが、読んでいただくと、自助の部分と、共助の部分大きな柱になっているということがおわかりいただけるのかなと思います。国のほうで①番目は「自らの安全を確保する」、②番目のところで、「他の人々や集団、地域の安全に役立つことができる」というようなところが大きく示されていますし、東京都のほうも、「まず自分の命を守り、次に身近な人を助けて、更に地域に貢献できる」ようなことを育成していくというようなことが書かれているかと思います。

これに基づいて中野区のほうなのですが、教育課程の編成の際に、防災教育をきちんと位置づける、避難訓練ということは毎月されているのですが、それ以外に、防災教育について年間を通した指導を行いましょうということを指導していますし、また、避難訓練でも、ただ地震が来ましたということではなくて、緊急地震速報が受信された場合にどういふふうに子どもが動くとか、急に教室以外の場所でそういうことが発生したときには、どう対応するかというようなことの訓練をメインに行っている、より実践的な訓練をしているようなところが特徴かなと思います。

別添でつけました、防災教育の細かい状況なのですが、大きな柱として、左側のところが、防災教育の補助教材「3・11を忘れない」これは東京都がかなりお金もエネルギーも使って作成したもので、これは子どもたち一人一人に配られて、これを活用した防災教育を進めています。それから、右側のほうが、家庭や地域と結びついたということの防災教育又は訓練をどういうふうに進めているかというところを集計したものですので、これを少しご説明していきたいと思います。

まず、「3・11を忘れない」というのは、小学校版と中学校版の二つの構成になっております。小学校版のほうを見ていただきたいのですが、これは何も地震だけのことが書いてあるわけではなくて、めくっていただきますと、4ページ、5ページのところに目次が出ています。5ページのところの目次を見ていただきますと、当然、冒頭は東日本大震災のことで始まってきてはいるのですが、例えば、日本の場合は火山も国土の特徴としてありますし、それから、今回、台風の水害というのが日本でも大きな災害をもたらしているのですが、そういうものがあるというようなことで、地震に限らず違う災害についても学習をする形になっています。それから、これまで日本で経験した、関東大震災や阪神淡路

大震災のことも載っています。

その後には、「備えて」「守って」「明日へ」という形で、先ほどお話した自助ですとか、共助の部分でどういうことが大切か、例えば、「備えて」の部分で、地域防災マップをつくってみようというようなものも学習活動としてはそういうものを取り入れて、防災について学ぶということも示されているところでもあります。

A3のプリントのほうに戻っていただきたいのですが、この「3・11」をどういう形で活用しているかというところで、小学校のほうを見てみますと、特徴的なのは、総合的な学習の時間にこれを活用した学習を取り入れるということもあります。また例えば、真ん中ぐらいに北原小学校で、国語の時間で活用するということが出てきているのですが、例えばこれを見ていきますと、国語の時間と災害がどう関係するかということなのですが、先人が教える地震 22 ページ、23 ページあたりを見ていただきますと、例えば百人一首の中で、「末の松山波こさじとは」これは、百人一首をご存じの方も多いかと思うのですが、実際は多賀城のところの歌だということで、今回の東北の震災と関連があるのですよなんていうところも学ぶ形になりますので、必ずしも特別活動ですとか、総合的な学習の時間ではなくて、広くいろいろな教科、領域の中で活用できるような資料になっていますので、そんな活用がされているのかと思います。

右側のほうを見ていただきますと、地域と連携したというところで、避難訓練ですとか、引き渡し訓練などはベースとしてはあるのですが、真ん中より少し下ぐらいに新山小学校があるのですが、9月14日の学校公開日に防災教室というものを、保護者の方も参加できるような形で実施をすとか、それから、裏面は中学校の例になりますが、一番下の中野中学校なのですが、8月の夏休み期間中に避難訓練を地域と合同で行って、体育館が避難所になったとき、どのような動きを学校や地域の方たちがやるべきなのか、当然その延長線上には何日間か泊まっていくということで、1泊だったのですが、そのような地域と協働して訓練をしていると。

それから、中学校での特徴は幾つかあるのですが、例えば、第七中学校のところに「防災隊」という言葉が出てくるのですが、そういうものを中学生の場合は、震災が起きたときには、共助の部分で大きな戦力になるということで、そんな動きが今、区内の中学校では防災隊をたくさん結成して、子どもたちの意識を高めていくというようなことが行われているということがございます。

A4のプリントのほうに戻っていただきたいと思いますが、各学校そこに書かれている

ようなさまざまな取り組みをしているところなのですが、平成24年度と25年度、第七中学校が研究指定校として防災教育ということについて取り組んでおります。研究の概要については以下に示したとおりなのですが、下から二つ目、それから、一番最後のところで、保護者や地域住民と協力した、ただ学校で教育活動を行うだけではなくて、保護者、地域の方たちとの協働というところが一つのテーマになっているかと思えますし、先ほど申し上げた防災隊などで地域に貢献するというようなところも特徴としては挙げられるかと思えます。

それから(2)のところで教員の研修をどういうふうに行っているかというところですが、昨年度は東北をめぐってきた指導主事をお招きして、具体的なスライド等も見せながらの研修を行いました。これは各校1人必ず出るという形で、その方たちは自校に戻って、その報告をするというような形でやりました。

本年度は、校長研修会で学校における防災教育のあり方ということで、経営者である校長先生に研修を行ったところであります。

最後、普通救命救急講習というものなのですが、これは毎年人数制限があるので、大体20名程度なのですが、AEDの使い方を初め、応急手当、その他の知識、技術についての研修を行っております。これは毎年少しずつそういう講習を完了した人間をふやしていくという形で進めています。

このほかに各学校ではプールの実施前に、消防署に来ていただいて、簡単な人工呼吸ですとか、心臓マッサージ等の訓練も行っているところです。

そういった形で、教育の内容の部分、地域との連携との部分、そして教員の育成ということで中野区における防災教育、安全教育を進めているところです。

報告は以上でございます。

大島委員長

それでは、ただ今の報告につきまして、ご質問等、ご発言ありますでしょうか。

高木委員

私は今、区内の公立小学校に通っている中3と小5の息子がいて、ちょうど先日、これが机の上にぽんと置いてあったのをとって、中身をちらちらと見てみました。大体ベースになっているものは同じなのですが、非常に興味深い内容だと思います。あと、おとといぐらい、夜、地震があったときに、震度1ぐらいだったと思うのですが、私はパソコンに座って仕事をして、妻はテレビを見ていたのですが、子どもたち2人はあっ

という間にテーブルの下に中3の息子も入って、おさまるまで。いや、ちゃんとしているなど、学校の指導がいいのだなというので、我々も以前、学校に表敬訪問に行ったときに、ちょっと地震があったときにも、児童が一斉に入って。ただ、小学校だったので私のサイズだと入れなかったというはあるのですが、そういう点では中野区ではきちっと日常的に防災教育をやっているなという印象を持っております。

また、今、指導室長からご説明があった第七中学校は研究指定校でいろいろやっていて、非常に意欲的な取り組みをやっていて、先日、防災教育でしたか、東京都の表彰も受けたと思うのです。研究発表の第1段階のときに、私も行きましたけれども、指導室長から説明があったように、中学生が少子高齢化の中では、すごく戦力になるのではないかということを経験先生や、担当の先生が言っていました。やはり高校、あるいは大学生になると、必ずしも区内にいないですね。もちろん社会人の方は仕事に行っていると。ご高齢の方ばかりですと、中3というとかかなり体格もいいですし、判断力もあるので、そういった形で防災のかなめになるように、これを見ても七中だけではなくても、いろいろな中学校で消防訓練、自衛消防隊ですね。軽可搬ポンプなんかをやっているのは非常にいい取り組みだなと思っています。

小学校の場合はなかなか、1年生からいますので、守るべき存在なのかなと思いますが、その引き取り等々についても、地域ごとの下校とかもやっていて、東日本のときにもかなり苦労した経験がありますので、それを忘れないうちにいろいろ整理してやっているといますので、今後も引き続き、進めていっていただきたいなと思っています。

大島委員長

ほかにありますでしょうか。

小林委員

今、報告で大変しっかりとした充実した取り組みが行われているということで、よろしいかと思います。さらに今後、高木委員からもお話がありました七中の研究の成果、こういうのを1校だけではなくて、もちろん地域にはそれぞれの子どもの実態の違いがあると思いますけれども、こういった成果をうまく普及、啓発していくということも大事だと思いますので、今後もさらにそうした区内のよい取り組みをお互いに学び合って、ブラッシュアップした指導を進めていくということをぜひ、進めていただければと思います。

大島委員長

ほかに。

渡邊委員

防災教育を本当に充実させていると思っております。3・11のことがありまして、防災教育に対する認識というのは子どもたちだけでなく、大人もかなり高まったのは事実だと思います。

ただ、我々も防災に関していろいろと行っているのですが、若干3・11のときから比べると、年々、気持ち的にはなれてきてしまったというか、真剣味が足りなくなってきた傾向があります。ことしは3月でちょうど3年目を迎え、ある意味節目ということも考えてさらに強化した防災教育をしていただきたいなと思っております。

また、先ほど七中の防災隊、我々は地域に暮らしていますが、地域にとっては非常に頼りになりますので、こういったこともやはり地域と溶け込むとか、子どもたちの団結力とか、そういった意味でも、こういった何らかの形、何とか隊とって、それだけの訓練ではなくて、常の授業の中にも含まれた集合体でやれるようなことがあったらいいのだらうなど、率直に感想ですけれども思っておりました。

それと、3・11の本の説明をしていただいたのですけれども、防災教育充実に向けて、東日本大震災視察、観察報告、都内の教員の先生、指導主事の先生が行かれて、1冊の本にさせてみて、三日間、本当にお疲れの内容でした。講義が非常によく、盛りだくさんで、内容を見ていて思いました。ここでも先ほど同じように、一番最後のページに皆様の、行った方の感想が書いてありました。やはりそれぞれ見ても、みなさんの感想がそれぞれに違っているというところがやはり人間の感じ方というのは、10人いれば10人感じ方が違うのだなど。でも、どれも大切にしていることは何となく一緒なものですから、やはりここからも、これをほかの教員に伝えて、いろいろな形で、いろいろな角度からアプローチできたら。感想の部分は非常に講義の内容一つ読むと大変なのですけれども、一番最後の感想の部分なんかを読んでいるとそこだけで大体内容がわかる、この三日間の研修の内容が伝わってくる、本当に短い文でしたけれども。ぜひ防災にかかわる先生には、目を通していただきたいなと思っておりました。

以上です。

大島委員長

ほかにありますでしょうか。

教育長は何かご感想はございますか。

教育長

先ほどもちょっと、指導室長のほうから報告させていただきましたけれども、今、第3回定例会開会中なのですけれども、一般質問などで、何人かの議員さんから、学校の防災教育とか防災に対する取り組みということがご質問の中に出まして、今やっていること、ここにもご報告させていただきましたけれども、評価してくださる内容で、先ほどの共助ではありませんけれども、地域と協働でという視点をもっと推し進めてほしいというような内容でした。事務局としても、地域の方々が一生懸命熱心にアプローチもしていただけますので、地域と一緒に避難所開設訓練でありますとか、地域への防災訓練の参加など、情報提供しながら、学校が地域と取り組みやすいような働きかけもしていきたいなと思っています。

また、来月11月4日、町会連合会主催で毎年軽可搬ポンプの総合大会というのが開かれているのです。昨年は旧富士見中の跡地のところでやったのですけれども、一部の学校だけが参加だったのですけれども、ことしは町会から強い働きかけもありまして、全中学校参加ということで、今、一生懸命練習してくれていると思いますので、またその結果については改めてご報告をさせていただきたいと思います。

以上です。

大島委員長

中野区としても充実した防災安全教育をやっていただいているという様子が見てとれるわけですが、高木委員のお話にもありましたけれども、私も前に小学校に行ったときにたまたま地震があつて、生徒がさっと机の下に隠れるというのを見て、日ごろの訓練が非常に徹底していて、すばらしいなと感じたこともあります。

この「3・11を忘れない」という本もとてもよくできていて、日本は自然災害が多い国でもありますし、その自然災害の歴史から、今、自分がどういうことをやらなくてはいけないかというところまで、網羅的に書いてあるので、本当にこれはいい資料だなと、拝見して私も思いました。自分自身も東京直下型地震が来る可能性が高いとかいうようないろいろな世間の報道なんかも見ていまして、備えなければいけないなと頭では思いつつ、現実生活では、正直言って、ほとんど何も備えていないというお粗末な状況です。各家庭でもしっかり災害に対しての備えをしていらっしゃる家庭もあるでしょうけれども、そういう中で、学校で子どもたちがしっかりこういうことの教育を受けて、むしろ家庭、親を啓発してくれると、そういうような役割も担ってくれるのかななどと想像しておりますので、これからも、学校での教育をしっかりやっていかななくてはいけないのではないかなと思

た次第です。

それでは、この報告はよろしいでしょうか。

それでは、報告事項の2番目「運動遊び事例集について」の報告をお願いします。

指導室長

それでは、「運動遊び事例集」というものを今回作成しましたので、それについてご報告を申し上げます。

まず、オリンピックの東京招致が決まったのですけれども、だからといってつくったわけではないということをまず前置きをさせていただきたいと思いますが、2の「作成の経緯」のところ、平成17年度それから23年度教育ビジョン、それから、2次の部分で、体力向上ということが中野区の一つのテーマということで、設定をしています。これに対して各学校、教育委員会も含めて、さまざまな取り組みをしているのですが、大きく四つくらいかなと思うのです。一つは、学校の授業改善、体育の授業を改善する。それから、体育的な行事などを学校で設定をする。例えば、マラソン大会ですとか、縄跳び週間などを設けて学校全体で取り組みをしていきたいと思いますということ。

それから、スポーツ推進校というのが、東京都が指定をしているのがありますが、これに複数校が手を挙げて、それについて研究活動として取り組んでいる。それから、先ほどフラッグフットボールのお話もありましたが、オール中野としてフラッグフットボールに取り組むと。そんな形で取り組んではいるところですが、ただ、体力調査の結果を見ますと、なかなか改善の数値が見られてこないというのが現実でもあります。

そのあたりで授業改善、学校行事等の取り組みをしているのだけれども、日常の子どもたちの生活、遊びの部分、耕していけないと、なかなかベースアップというのは難しいだろうということで、例えば、昔ですと休み時間に遊んだものを放課後、地域や家庭に帰ったときにその遊びの続きをするなんてこともよく見られたと思うのですが、そのあたりを学校の休み時間と放課後を遊びでつなげていくということをする必要があるだろうということで、「作成の意図」の一番最後の2行に書いたのですが、各学校において、休み時間や体育の時間などで子どもと先生と一緒に体を動かす、そういう機会をふやしていくことで日常的な遊びの変化などにつなげていきたいなというところで、この冊子をつくったというのが意図でございます。

作成の経緯はそこに1から4まで書いておきましたが、教育ビジョンに基づいてさまざまな、先ほど申し上げた取り組みをしているのですが、今回は遊び事例集を使って、先ほ

ど申し上げた狙いに迫っていきたいなということでもあります。

見ていただきたいのですが、開いていただきますと、3ページから10幾つの遊びを紹介してあります。委員の先生方は昔子ども時代に遊ばれたようなものばかりかと思うのですが、これを体育部の先生にお願いをしてつくってもらったのですが、つくるということを通して、教員の意識を啓発したいという部分もありますし、また、これを参考に「今度、休み時間これをやってみようか」という形で、若い先生の中にはこういう遊びを知らない方もいる時代になってきていますので、そういう意味でこれを参考にして、先ほど申し上げたような活動につなげていきたいなと思っています。

この配付について、冊子の部分、それからデータファイルということで、各学校に配付をして、今後、この使い方を定例の校長会ですとか、そういうところで説明をして、活用してもらおうようにしていきたいなというのと、追加を今後定期的に行って、この事例集をふやしていきたいと考えてございます。

報告は以上です。

大島委員長

ただ今の報告につきまして、質問等、ご発言がありましたらお願いします。

小林委員

大変貴重な事例集だと思います。その理由の一つは、それぞれの事例の遊び方で記載されているのですが、いわゆる人数が10人とか多くなっていますね。最近の子どもたちは、多くの子どもたちとかかわれないとか、そういった遊びをしていないという、少子化とか、さまざまな実態がありますので、そういった点でも、非常に大事なかなと思いますので、ぜひ、これを有効に活用するようにうまく進めていただければなと思いました。

もう1点、これは余計なことかもしれませんが、大事なことでもあるのですが、古い遊びの中に、時としていわゆる昔の身分制度に基づいたそういう人権上の課題があったりとかというようなこともあると思います。これはぱっと見たところそんなことはないと思いますけれども、そういった面でもフィルターにかけて精査して、最終的に作成していくということが大事だと思いますので、一応、その2点だけお話ししておきたいと思います。

大島委員長

では、ほかにございますか。

渡邊委員

自分たちがやったことがあるようなものばかりですね。こういった文章で見たことは、

生まれて初めてなのですけれども、今、指導室長が言われたとおり先生方はみんなやられたことがあると思いますけれどもというようなお話で、実際こういうことをマニュアルを持って教えなければいけない時代が来たのかなと。一瞬これをどう思ったらいいのかよく、答えが全然浮かばないですけど、ただ、率直な感想として我々が遊んでいたものが、遊びの形態とか生活形態が確実に変わってきているというあらわれでもあるのだと感じました。

今思い出すと、学校が終わった後に校庭に集まって、同じようなこんなことをやって、友達同士よく遊んでいたかなと。今の子どもたちはそういう意味ではやはりもっとこうやって体を動かして遊ぶという形を、こういうのは不自然には感じますけれども、こういう形でもどんどん教えていって、またその子たちがやったことによって次の世代に伝えられたほうがいいのだろうと率直に思っております。内容的には確かに昔の子どもの遊びの中には、今、小林委員が言ったように、気をつけなくてはいけない部分があるなど思いましたので、そういうことにも注意しながら、ぜひ啓発していただきたいなと思いました。

以上です。

大島委員長

ほかにはいかがでしょうか。

私から質問なのですけれども、今、若い先生では先生自身やったことがないような方もいらっしゃるのではないかという話もありましたけれど、これは広めていく場合にまず先生が知らないといけないと思うのですけれども、その辺の段取りといたしますか、やり方はどんなふうに考えてらっしゃいますでしょうか。

指導室長

何人かの先生がおっしゃっていたように、「これをつくらなくてはいけないか」ということと自体に疑問が出るようなところでもありますので、これについてはとりあえずこういうものをつくって、ぜひ、学校のほうで教職員に周知をして、例えば、放課後遊ぶとか、学級活動で遊びを構成するみたいな時間帯もあるので、そういったときに活用してほしいなというところが私どもの意図で、これについては研修会をするというところまでは、今のところ考えておりません。

大島委員長

わかりました。学校のほうでいろいろ、運動遊びをやるときの参考資料に使ってもらえばというような趣旨だと理解しました。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、事務局報告事項の3番目「海での体験事業の実施結果について」の報告をお願いします。

副参事（学校・地域連携担当）

それでは、平成25年度海での体験事業の実施結果につきましてご報告させていただきます。

お手元にA4の資料と、アンケートの結果を別紙として配付させていただいております。

この事業の実施につきましては、平成25年4月26日の教育委員会第13回定例会でご報告させていただいておりますが、このたび事業が終了し、実施結果がまとまりましたので、ご報告させていただくものでございます。

まず、資料項目1「事前指導」でございます。

中野中学校のプールにおきまして、泳力測定、班づくり、水泳指導を海合宿の参加者ごとに日にちを振り分けて、資料にあります日程で実施をさせていただいております。

参加者数は、申し込みいただきました、97名でございます。

次に2の「海合宿」でございます。

実施海岸は、静岡県沼津市西浦江梨にございます「大瀬海水浴場」でございます。

内容といたしましては、基本的に各回共通で一日目の午後にライフセービングの技術講習、二日目の午前に持久泳、午後にスノーケリングの講習を行いまして、三日目にスノーケリングの技術を生かしながら、海中生物の観察などを行ってございます。

参加者数は事前指導の後に、2名の方の辞退がありましたので、95名となっております。各回の日程と参加者数は資料に記載してあるとおりでございます。

続きまして、実施状況につきましては、写真を掲載させていただきました。資料の一番下に事前指導、おめくりいただきまして、裏面の上から、海合宿でのライフセービング講習、持久泳、スノーケリングとなっております。

最後に、別紙のアンケートの結果でございます。表面のほうに、参加をいただいた児童で、裏面のほうに保護者の方々のアンケート結果を記載させていただいております。保護者の方々につきましては、事前説明会と授業終了後に行いました報告会での授業内容を参考にいただきまして、アンケートにご記入をいただきました。アンケートからは、多くの児童、保護者の方々から、参加して大変よかったという高い評価をいただいております。アンケートの詳細につきましては、別紙資料をお読みとりいただきたいと思います。

報告は以上でございます。

大島委員長

それでは、ただ今の報告につきまして、質問等、発言がございましたら、お願いします。

渡邊委員

こちらのほうに参加者数を書いてあるのですけれども、昨年度の参加者数はどれぐらいだったのでしょうか。

副参事（学校・地域連携担当）

昨年度の参加者数が82名でございまして、それより若干ふえてございます。

渡邊委員

ふえてよかったと思います。こういう機会は非常に重要だと思っておりますので、参加者数が第1回目、第2回目、第3回目、第1回目が40名、徐々に下がって3回目のほうが24名ですか。4割減という形になりますよね。意外にこれは日程の形で参加しにくくなるという、何らかの事情、もしその日程を変更することによって、また参加者数が単純にふえるというようなことはあるのでしょうか。

副参事（学校・地域連携担当）

日程につきましては、委員ご指摘のとおり、1回目が一番多くなっております。今回は参加の申し込みいただいた方の第1希望の海合宿での参加ということで、設定をさせていただきましたので、このような人数のばらつきが出ているということになってございます。

委員のおっしゃるとおり、前半のほうが参加しやすいというような、ご要望、ご意見があるようなことを検討しながら、日程も再度また調整をさせていただきたいと考えております。

渡邊委員

ありがとうございました。アンケートの結果で、参加させてよかったという答えが約100%に限りなく近い数字が出たところがすばらしくよかったのだらうと。また、この課外活動が十分に洗練されたものであった証拠だったと思います。

来年もまた参加を希望しますかということで、25%いらっしやらないのですけれども、これは母数が少ないから、多少ちょっと答えなかった人たちの問題で、75%の返事をいただければ、内容的にはかなり充実したものができたのではないかと考えております。ですから内容的には問題はないとは思うのですけれども、やはり、参加者をふやす努力というのを来年できればいいのではないかなと感じました。

以上です。

大島委員長

ほかにございますでしょうか。

小林委員

宿泊施設の概要について教えていただければありがたいと思います。

副参事（学校・地域連携担当）

宿泊先でございますけれども、憩海荘という民宿を貸し切る形で確保してございます。海岸からはゆっくり歩いて5分程度で、海拔28メートルの高台にあるということで、津波等の安全面についても、確認をとってございます。宿泊の収容人数ですけれども、おおむね50人程度という規模の民宿になってございます。

大島委員長

私と高木委員は昨年視察に行きましたので、宿舎の中の様子なんかも見ているのですが、小林委員や渡邊委員はまだいらしていないので、宿舎についての写真なんかはございませんか。

副参事（学校・地域連携担当）

こちらの資料としては持ってはございません。

教育委員会事務局次長

資料については去年のものもありますので、宿舎は去年と変わりませんから、去年の資料を後ほどご覧いただきたいと思います。

大島委員長

そうですね。では、宿舎の状況をわかる写真を見せていただければと思います。

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

それでは、そのほかに報告事項はございますか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

大島委員長

では、以上で本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会第29回定例会を閉じます。

午前10時53分閉会